

AZ  
366  
E35

所得税法外十六法律中  
改正法律案新旧对照表  
大蔵省主税局

国立国会図書館



0031239-000

AZ-366-E35

所得税法外十六法律中改正法律  
案新旧对照表

大蔵省主税局

1945. 1

AEB

27F9

昭和二十年一月

所得稅法外十六法律中改正法律案新舊對照表

大藏省主稅局

AZ  
366  
E35

臨時租稅措置法	骨牌稅法	入場稅法	遊興飲食稅法	酒稅法	通行稅法	地租法	臨時利得稅法	營業稅法	特別法人稅法	法人稅法	所得稅法
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
四七	四五	四三	三九	二九	二七	二五	二三	二一	一九	一七	一

目次

改廢ノ箇所ハ傍線  
施シテ之ヲ示ス



77W30357

所得稅法人稅內外地關涉法	六三
戰時災害國稅減免法	六五
納稅施設法	六七
輕金屬製造事業法	七一
國民貯蓄組合法	七三
附則	七五

## 所得稅法

### 改正法

第八條 株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社、脱退若ハ出資ノ減少ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込済金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ト看做シ本法ヲ適用ス

### 現行法

第八條 左ノ金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ト看做シ本法ヲ適用ス

- 一 株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社、脱退若ハ出資ノ減少ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込済金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額
- 二 法人解散シタル場合ニ於テ剩餘財産ノ分配トシテ株主、社員又ハ出資者ノ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込済金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額
- 三 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主、社員又ハ出資者ガ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金錢ノ總額ガ其ノ株主、社員又ハ出資者ノ有シタル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額

第十條 分類所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第十條 分類所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第一 不動産所得

不動産、不動産上ノ権利又ハ船舶ノ貸付（永小作權又ハ地上權ノ設定其ノ他他人ヲシテ不動産、不動産上ノ権利又ハ船舶ヲ使用セシムル一切ノ場合ヲ含ム以下同ジ）ニ因ル所得但シ甲種ノ事業所得ニ屬スルモノヲ除ク

第二 配當利子所得

甲種 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ預金（法人ニ對スル預金ニ限ル）ノ利子及合同運用信託ノ利益並ニ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配

乙種 營業ニ非ザル貸金ノ利子並ニ甲種ニ屬セザル公債、社債又ハ預金ノ利子、合同運用信託ノ利益及法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配

第三 事業所得

甲種 左ニ掲グル營業ノ所得

- 一 物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ販賣ヲ含ム）
- 二 金錢貸付業
- 三 物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ

第一 不動産所得

不動産、不動産上ノ権利又ハ船舶ノ貸付（永小作權又ハ地上權ノ設定其ノ他他人ヲシテ不動産、不動産上ノ権利又ハ船舶ヲ使用セシムル一切ノ場合ヲ含ム以下同ジ）ニ因ル所得但シ甲種ノ事業所得ニ屬スルモノヲ除ク

第二 配當利子所得

甲種 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ預金（法人ニ對スル預金ニ限ル）ノ利子及合同運用信託ノ利益並ニ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配

乙種 營業ニ非ザル貸金ノ利子並ニ甲種ニ屬セザル公債、社債又ハ預金ノ利子、合同運用信託ノ利益及法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配

第三 事業所得

甲種 左ニ掲グル營業ノ所得

- 一 物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ販賣ヲ含ム）
- 二 金錢貸付業
- 三 物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ

貸付ヲ含ム

- 四 製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）
- 五 運送業（運送取扱ヲ含ム）
- 六 倉庫業
- 七 請負業
- 八 印刷業
- 九 出版業
- 十 寫眞業
- 十一 席貸業
- 十二 旅人宿業
- 十三 料理店業
- 十四 周旋業
- 十五 代理業
- 十六 仲立業
- 十七 問屋業
- 十八 鑛業
- 十九 砂鑛業
- 二十 湯屋業
- 二十一 理髮美容業

貸付ヲ含ム

- 四 製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）
- 五 運送業（運送取扱ヲ含ム）
- 六 倉庫業
- 七 請負業
- 八 印刷業
- 九 出版業
- 十 寫眞業
- 十一 席貸業
- 十二 旅人宿業
- 十三 料理店業
- 十四 周旋業
- 十五 代理業
- 十六 仲立業
- 十七 問屋業
- 十八 鑛業
- 十九 砂鑛業
- 二十 湯屋業
- 二十一 理髮美容業

二十二 其ノ他命令ヲ以テ定ムル營業

乙種 農業、畜産業、水産業等ノ所得、醫師、辯護士等ノ所得

其ノ他清算取引所得以外ノ他ノ種目ニ屬セザル總テノ所得

丙種 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル報酬、料金等ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ所得

第四 勤勞所得

甲種 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル俸給、給料、歳費、費用  
辨償、年金、恩給(一時金タル恩給ヲ除ク)及賞與並ニ此等ノ  
性質ヲ有スル給與但シ命令ヲ以テ定ムル個人ヨリ支拂ヲ受ク  
ルモノヲ除ク

乙種 甲種ニ屬セザル俸給、給料、歳費、費用辨償、年金、恩  
給(一時金タル恩給ヲ除ク)及賞與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給  
與

第五 山林ノ所得

第六 退職所得

甲種 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル一時恩給及退職給與並ニ  
此等ノ性質ヲ有スル給與

乙種 甲種ニ屬セザル一時恩給及退職給與並ニ此等ノ性質ヲ有  
スル給與

二十二 其ノ他命令ヲ以テ定ムル營業

乙種 農業、畜産業、水産業等ノ所得、醫師、辯護士等ノ所得

其ノ他ノ種目ニ屬セザル總テノ所得

丙種 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル報酬、料金等ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ所得

第四 勤勞所得

甲種 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル俸給、給料、歳費、費用  
辨償、年金、恩給(一時金タル恩給ヲ除ク)及賞與並ニ此等ノ  
性質ヲ有スル給與但シ命令ヲ以テ定ムル個人ヨリ支拂ヲ受ク  
ルモノヲ除ク

乙種 甲種ニ屬セザル俸給、給料、歳費、費用辨償、年金、恩  
給(一時金タル恩給ヲ除ク)及賞與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給  
與

第五 山林ノ所得

第六 退職所得

甲種 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル一時恩給及退職給與並ニ  
此等ノ性質ヲ有スル給與

乙種 甲種ニ屬セザル一時恩給及退職給與並ニ此等ノ性質ヲ有  
スル給與

第七 清算取引所得

株式ノ清算取引ニ因ル所得

(第二項省略)

第十二條 分類所得稅ヲ課スベキ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ  
算出ス

一 不動産所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費(收入ヲ得  
ルニ必要ナル負債ノ利子ヲ含ム以下同ジ)ヲ控除シタル金額

二 甲種ノ配當利子所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額(公債及社債  
ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)

三 乙種ノ配當利子所得中法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又  
ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ、其ノ  
他ハ前年中ノ收入金額(無記名株式ノ配當並ニ無記名ノ公債及  
社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)

四 事業所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル  
金額

五 甲種ノ勤勞所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額

六 乙種ノ勤勞所得ハ前年中ノ收入金額

七 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタ

第七 清算取引所得

株式ノ清算取引ニ因ル所得但シ甲種ノ事業所得又ハ營利ヲ目的  
トスル繼續的行爲ヨリ生ジタル所得ニ該當スルモノヲ除ク

(第二項省略)

第十二條 分類所得稅ヲ課スベキ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ  
算出ス

一 不動産所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費(收入ヲ得  
ルニ必要ナル負債ノ利子ヲ含ム以下同ジ)ヲ控除シタル金額

二 甲種ノ配當利子所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額(公債及社債  
ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)

三 乙種ノ配當利子所得中法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又  
ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ、其ノ  
他ハ前年中ノ收入金額(無記名株式ノ配當並ニ無記名ノ公債及  
社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)

四 事業所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル  
金額但シ水産業ノ所得ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前三年間毎年ノ  
總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ノ平均ニ依リ算出  
シタル金額

五 甲種ノ勤勞所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額

五

- ル金額
  - 八 甲種ノ退職所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ヨリ支拂者ヲ異ニスル毎ニ三千圓ヲ控除シタル金額
  - 九 乙種ノ退職所得ハ前年中ノ収入金額ヨリ支拂者ヲ異ニスル毎ニ三千圓ヲ控除シタル金額
  - 十 清算取引所得ハ取引一決済毎ノ収入金額ヨリ必要ノ経費ヲ控除シタル金額
- (第二項以下省略)

第二十條ノ二 清算取引所得ハ百圓ニ滿タザルトキハ分類所得稅ヲ課セズ

第二十一條 分類所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 第一 不動産所得 百分ノ二十三
- 第二 配當利子所得
  - 甲種
    - 一 國債ノ利子 百分ノ十六
    - 二 國債以外ノ公債ノ利子、元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付政府ノ保證アル社債ノ利子並ニ法人ヨリ受クル利益若ハ利息

- ノ配當又ハ剩餘金ノ分配
  - 三 其ノ他 百分ノ二十三
  - 乙種 百分ノ二十三
  - 第三 事業所得
    - 甲種及乙種 百分ノ二十一
    - 丙種 百分ノ十八
  - 第四 勤勞所得 百分ノ十八
  - 第五 山林ノ所得
    - 所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス
      - 二千圓以下ノ金額 百分ノ十八
      - 二千圓ヲ超エル金額 百分ノ二十三
      - 四千圓ヲ超エル金額 百分ノ二十八
      - 二萬圓ヲ超エル金額 百分ノ三十三
      - 四萬圓ヲ超エル金額 百分ノ四十八
      - 十萬圓ヲ超エル金額 百分ノ六十三
  - 第六 退職所得
    - 所得金額ヲ支拂者ノ異ル毎ニ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス
      - 二萬圓以下ノ金額 百分ノ十八

- 六 乙種ノ勤勞所得ハ前年中ノ収入金額
  - 七 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ経費ヲ控除シタル金額
  - 八 甲種ノ退職所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ヨリ支拂者ヲ異ニスル毎ニ三千圓ヲ控除シタル金額
  - 九 乙種ノ退職所得ハ前年中ノ収入金額ヨリ支拂者ヲ異ニスル毎ニ三千圓ヲ控除シタル金額
  - 十 清算取引所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ経費ヲ控除シタル金額
- (第二項以下省略)

第二十條ノ二 清算取引所得ニ付テハ其ノ所得ヨリ三千圓ヲ控除ス

第二十一條 分類所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 第一 不動産所得 百分ノ二十一
- 第二 配當利子所得
  - 甲種
    - 一 國債ノ利子 百分ノ十三
    - 二 國債以外ノ公債ノ利子、元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付政府ノ保證アル社債ノ利子並ニ法人ヨリ受クル利益若ハ利息

- ノ配當又ハ剩餘金ノ分配
  - 三 其ノ他 百分ノ十九
  - 乙種 百分ノ二十
  - 第三 事業所得
    - 甲種及乙種 百分ノ十八
    - 丙種 百分ノ十五
  - 第四 勤勞所得 百分ノ十五
  - 第五 山林ノ所得
    - 所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス
      - 二千圓以下ノ金額 百分ノ十五
      - 二千圓ヲ超エル金額 百分ノ二十
      - 四千圓ヲ超エル金額 百分ノ二十五
      - 二萬圓ヲ超エル金額 百分ノ三十
      - 四萬圓ヲ超エル金額 百分ノ四十五
      - 十萬圓ヲ超エル金額 百分ノ六十
  - 第六 退職所得
    - 所得金額ヲ支拂者ノ異ル毎ニ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス
      - 二萬圓以下ノ金額 百分ノ十五

二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十八
十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十三
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ六十三

第七 清算取引所得  
所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

一萬圓以下ノ金額	百分ノ五
一萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十

不動産所得ノ金額ガ六百圓以下ナルトキハ前項中不動産所得ニ付規定スル稅率百分ノ二十三ハ之ヲ百分ノ二十一トス

投資信託ノ利益ニ付テハ第一項中配當利子所得甲種第三號ニ規定スル稅率百分ノ二十三ハ之ヲ百分ノ二十一トス

元本五千圓ヲ超エザル銀行預金、銀行貯蓄預金、市町村農業會貯金、產業組合貯金、市街地信用組合貯金其ノ他命令ヲ以テ定ムル

預金ノ利子及元本五千圓ヲ超エザル命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ第一項中配當利子所得甲種第三號ニ規定スル稅率百分ノ二十三ハ之ヲ百分ノ七トス

(第五項省略)

第十七條ノ規定ニ依ル控除前ノ甲種及乙種ノ事業所得ノ總額ガ千

二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十五
十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ六十

第七 清算取引所得  
所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

十萬圓以下ノ金額	百分ノ三十五
十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ五十
三十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ六十五

不動産所得ノ金額ガ六百圓以下ナルトキハ前項中不動産所得ニ付規定スル稅率百分ノ二十一ハ之ヲ百分ノ十九トス

銀行貯蓄預金、市町村農業會貯金、產業組合貯金、市街地信用組合貯金其ノ他命令ヲ以テ定ムル預金ノ利子ニ付テハ第一項中配當利子所得甲種第三號ニ規定スル稅率百分ノ二十ハ之ヲ百分ノ十五トス

元本五千圓ヲ超エザル銀行預金及前項ニ規定スル預金ノ利子並ニ元本五千圓ヲ超エザル命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ第一項中配當利子所得甲種第三號ニ規定スル稅率百分ノ二十

及前項ニ規定スル稅率百分ノ十五ハ之ヲ百分ノ五トス

(第五項省略)

圓以下ナルトキハ第一項中甲種及乙種ノ事業所得ニ付規定スル稅率百分ノ二十一ハ之ヲ百分ノ十八トス  
(第七項省略)

第二十二條 第一條ノ規定ニ該當セザル個人又ハ本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ハ前條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 一 國債ノ利子 百分ノ二十六
- 二 國債以外ノ公債ノ利子並ニ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付政府ノ保證アル社債ノ利子 百分ノ三十二

- 三 削除
- 四 前條第四項ニ規定スル預金ノ利子及合同運用信託ノ利益 百分ノ七
- 五 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配 百分ノ三十九

- 六 其ノ他 百分ノ三十三

第一條ノ規定ニ該當セザル個人ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益又ハ剩餘金ノ處分タル賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ對スル分類所得稅ハ前條ノ規定ニ拘ラ

第十七條ノ規定ニ依ル控除前ノ甲種及乙種ノ事業所得ノ總額ガ千圓以下ナルトキハ第一項中甲種及乙種ノ事業所得ニ付規定スル稅率百分ノ十八ハ之ヲ百分ノ十五トス  
(第七項省略)

第二十二條 第一條ノ規定ニ該當セザル個人又ハ本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ハ前條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 一 國債ノ利子 百分ノ二十三
- 二 國債以外ノ公債ノ利子並ニ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付政府ノ保證アル社債ノ利子 百分ノ二十九

- 三 前條第三項ニ規定スル預金ノ利子但シ同條第四項ニ規定スル預金ノ利子ヲ除ク 百分ノ二十五
- 四 前條第四項ニ規定スル預金ノ利子及合同運用信託ノ利益 百分ノ五

- 五 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配 百分ノ三十六
- 六 其ノ他 百分ノ三十

第一條ノ規定ニ該當セザル個人ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益又ハ剩餘金ノ處分タル賞與又ハ



ズ百分ノ三十五ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

第二十三條ノ二 株式ノ清算取引ニ付甲種又ハ乙種ノ事業所得ニ對

スル分類所得稅ヲ課スベキ者ニ付テハ其ノ前年中ニ納付シタル清算取引所得ニ對スル分類所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ甲種又ハ乙種ノ事業所得ニ對スル分類所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

第三十條 個人ノ總所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一 不動産、不動産上ノ權利又ハ船舶ノ貸付ニ因ル所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

二 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債、社債、銀行預金及第二十一條第三項ニ規定スル預金ノ利子並ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ハ前年中ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ三ヲ控除シタル金額

三 前號以外ノ公債、社債及預金ノ利子並ニ合同運用信託ノ利益ハ前年中ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）

四 營業ニ非ザル貸金ノ利子ハ前年中ノ收入金額ヨリ其ノ元本ヲ得ルニ要シタル負債ノ利子ヲ控除シタル金額

賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ對スル分類所得稅ハ前條ノ規定ニ拘ラズ百分ノ三十二ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

第三十條 個人ノ總所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一 不動産、不動産上ノ權利又ハ船舶ノ貸付ニ因ル所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

二 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債、社債、銀行預金及第二十一條第三項ニ規定スル預金ノ利子並ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ハ前年中ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ三ヲ控除シタル金額

三 前號以外ノ公債、社債及預金ノ利子並ニ合同運用信託ノ利益ハ前年中ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）

四 營業ニ非ザル貸金ノ利子ハ前年中ノ收入金額ヨリ其ノ元本ヲ得ルニ要シタル負債ノ利子ヲ控除シタル金額

五 法人ヨリ受ケタル利子ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年

五 法人ヨリ受ケタル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年

三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ元本ヲ得ルニ要シタル負債ノ利子ヲ控除シタル金額但シ第八條ニ規定スル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額ノ十分ノ五ニ相當スル金額ヨリ千五百圓ヲ控除シタル金額

六 削除

七 俸給、給料、歳費、費用辨償、年金、恩給及賞與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額

八 削除

九 前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

所得稅及臨時利得稅ハ前項第一號及第九號ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ

（第三項及第四項省略）

第一項第一號乃至第五號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第九號ノ所得ニ付テハ相續シタル資産又ハ事業ハ相續人ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス（第六項以下省略）

（第三項及第四項省略）

第一項第一號乃至第五號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第八號及第九號ノ所得ニ付テハ相續シタル資産又ハ事業ハ相續人ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス（第六項以下省略）

第三十二條 (第一項省略)

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 綜合所得稅ハ總所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス

三千圓ヲ超ユル金額	百分ノ八
五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ十五
八千圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十二
一萬二千圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十九
二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十六
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十二
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十八
八萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ五十四
十二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ五十九
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ六十四
三十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ六十九
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ七十四

(第二項省略)

第三十二條 (第二項省略)

第八條ニ規定スル利益ノ配當及剩餘金ノ分配並ニ其ノ他ノ所得ハ各之ヲ區分シ其ノ各所得ニ付前項ノ規定ヲ適用ス  
前條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 綜合所得稅ハ總所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ第八條ニ規定スル利益ノ配當及剩餘金ノ分配ハ他ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額中六百圓ヲ超ユク以下ノ金額ニ對シテハ百分ノ五ノ稅率ヲ、千圓ヲ超ユク三千圓以下ノ金額ニ對シテハ百分ノ八ノ稅率ヲ、三千圓ヲ超ユク金額ニ對シテハ本項ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ稅額トス

三千圓ヲ超ユル金額	百分ノ八
五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ十五
八千圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十二
一萬二千圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十九
二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十六
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十二
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ四十八
八萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ五十四

第三章中第三十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十三條ノ二 株式ノ清算取引所得ニ付綜合所得稅ヲ課スベキ者ニ付テハ第二十三條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ爲スモ不足アルトキニ

限り命令ノ定ムル所ニ依リ綜合所得稅額ヨリ其ノ不足額ヲ控除ス

第三十四條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種若ハ乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得若ハ乙種ノ退職所得ニ付分類所得稅ヲ納ムル義務アル者ハ個人ノ總所得ニ付綜合所得稅ヲ納ムル義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年一月三十一日迄ニ所得ノ種類及金額其ノ他必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ但シ其ノ年一月一日ヨリ其ノ年分所得金額ノ決定前ニ本法施行地ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル日ヨリ一月以内ニ申告スベシ

(第二項及第三項省略)

十二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ五十九
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ六十四
三十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ六十九
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ七十四

(第二項省略)

第三十四條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種若ハ乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得、乙種ノ退職所得若ハ清算取引所得ニ付分類所得稅ヲ納ムル義務アル者又ハ個人ノ總所得ニ付綜合所得稅ヲ納ムル義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年一月三十一日迄ニ所得ノ種類及金額其ノ他必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ但シ其ノ年一月一日ヨリ其ノ年分所得金額ノ決定前ニ本法施行地ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル日ヨリ一月以内ニ申告スベシ

(第二項以下省略)

政府ハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第二十五條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 (第一項及第二項省略)

政府ハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第二十四條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ノ金額並ニ個人ノ總所得ノ金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

(第二項以下省略)

第三十七條 五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

所得調査委員會開會ノ日ヨリ第五十八條ノ期間内又ハ五月三十一日迄ニ調査結了セザルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス

第七十二條 甲種ノ配當利子所得、丙種ノ事業所得、甲種ノ勤勞所得、甲種ノ退職所得又ハ清算取引所得ニ對スル分類所得稅ハ支拂者支拂ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納付スベシ

前項ノ場合ニ於テ丙種ノ事業所得ニ付テハ第十二條、第十七條、

第三十五條 (省略)

第三十六條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得、乙種ノ退職所得及清算取引所得ノ金額並ニ個人ノ總所得ノ金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

(第二項以下省略)

第三十七條 四月三十日迄ニ所得調査委員會成立セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

所得調査委員會開會ノ日ヨリ第五十八條ノ期間内又ハ四月三十日迄ニ調査結了セザルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス

第七十二條 甲種ノ配當利子所得、丙種ノ事業所得、甲種ノ勤勞所得又ハ甲種ノ退職所得ニ對スル分類所得稅ハ支拂者支拂ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納付スベシ

前項ノ場合ニ於テ丙種ノ事業所得ニ付テハ第十二條、第十七條、

第二十五條及第二十六條ノ二ノ規定ニ拘ラズ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ヨリ命令ヲ以テ定ムル金額ヲ控除シタル金額ニ第二十一條第一項ニ規定スル稅率百分ノ十八ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ依リ分類所得稅ヲ徵收スベシ

第七十三條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得稅並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ハ其ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

(第二項省略)

第八十四條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得稅並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納稅地トス但シ住所地以外ニ

第二十五條及第二十六條ノ二ノ規定ニ拘ラズ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ヨリ命令ヲ以テ定ムル金額ヲ控除シタル金額ニ第二十一條第一項ニ規定スル稅率百分ノ十五ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ依リ分類所得稅ヲ徵收スベシ

第七十三條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得、乙種ノ退職所得及清算取引所得ニ對スル分類所得稅並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ハ其ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ年額ガ命令ヲ以テ定ムル金額ニ滿タザルトキハ之ヲ二分シ第二期及第四期ニ於テ徵收ス

第一期 其ノ年六月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第三期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第四期 翌年二月一日ヨリ末日限

(第二項省略)

第八十四條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得、乙種ノ退職所得及清算取引所得ニ對スル分類所得稅並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納稅地トス但

在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得税ヲ納ムルコトヲ得  
(第二項省略)

第六條 個人ノ總所得中本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金、銀行貯蓄預金、市町村農會貯金、産業組合貯金、市街地信用組合貯金其ノ他命令ヲ以テ定ムル預金ノ利子及命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ當分ノ内納稅義務者ノ申請ニ依リ他ノ所得ト之ヲ區分シ利子又ハ利益ヲ支拂ノ際其ノ利子金額又ハ利益金額ヲ課稅標準トシ百分ノ三十ノ稅率ニ依リ其ノ綜合所得稅ヲ賦課スルコトヲ得  
(第二項以下省略)

## 法人稅法

### 改正法

第六條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價額ガ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員ガ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込金額又ハ出資金額及金錢ノ總額ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十二條 命令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造、採掘又ハ採取ヲ爲ス法人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ開始シタル事業年度及其ノ翌事業年度開始ノ日ヨリ三年以内ニ終了スル事業年度ニ於テ其ノ業務ヨリ生ズル所得ニ付法人稅ヲ免除ス

第十五條 削除

シ住所地以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得税ヲ納ムルコトヲ得

(第二項省略)

第六條 個人ノ總所得中本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金及第二十一條第三項ニ規定スル預金ノ利子並ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ當分ノ内納稅義務者ノ申請ニ依リ他ノ所得ト之ヲ區分シ利子又ハ利益ヲ支拂ノ際其ノ利子金額又ハ利益金額ヲ課稅標準トシ百分ノ三十ノ稅率ニ依リ其ノ綜合所得稅ヲ賦課スルコトヲ得  
(第二項以下省略)

### 現行法

第六條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價額ガ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員ガ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込金額又ハ出資金額及金錢ノ總額ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十二條 命令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造、採掘又ハ採取ヲ爲ス法人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ開始シタル年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生ズル所得ニ付法人稅ヲ免除ス

第十五條 法人ノ清算期間中ニ於テ生ジ又ハ合併ニ因リ生ジタル所得ニシテ本法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザルモノノ金

第十六條 法人税ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

一 各事業年度ノ所得

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人

所得金額ノ百分ノ三十三

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人

所得金額ノ百分ノ四十八

二 清算所得

清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各税率ヲ適用ス

積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依リ法人税ヲ課セラレザル

所得ヨリ成ル金額

所得金額ノ百分ノ二十六

其ノ他ノ金額

所得金額ノ百分ノ四十八

三 各事業年度ノ資本

資本金額ノ千分ノ三

(第二項以下省略)

額ハ法人ノ清算所得金額ヨリ之ヲ控除ス

第十六條 法人税ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

一 各事業年度ノ所得

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人

所得金額ノ百分ノ三十

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人

所得金額ノ百分ノ四十五

二 清算所得

所得金額ノ百分ノ三十

三 各事業年度ノ資本

資本金額ノ千分ノ三

(第二項以下省略)

### 特別法人税法

#### 改正法

第五條 特別ノ法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價額ガ解

散當時ノ拂込濟出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ特

別ノ法人ノ清算剩餘金トス

特別ノ法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル特

別ノ法人ノ出資者ガ合併後存続スル特別ノ法人又ハ合併ニ因リテ

設立シタル特別ノ法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル拂込濟出資金額

及金錢ノ總額ガ合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ合併當時ノ

拂込濟出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リ

テ消滅シタル特別ノ法人ノ清算剩餘金ト看做ス

前條第二項ノ規定ハ清算剩餘金ノ計算ニ付之ヲ準用ス

#### 現行法

第五條 特別ノ法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價額ガ解

散當時ノ拂込濟出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ

其ノ超過金額ヲ以テ特別ノ法人ノ清算剩餘金トス

特別ノ法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル特

別ノ法人ノ出資者ガ合併後存続スル特別ノ法人又ハ合併ニ因リテ

設立シタル特別ノ法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル拂込濟出資金額

及金錢ノ總額ガ合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ合併當時ノ

拂込濟出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過

金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ清算剩餘金ト看

做ス

第一項又ハ第二項ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タル

ヲ問ハズ特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金中其ノ留保シタル金額

ヲ謂フ

特別法人税トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之

ヲ算入セズ

前條第二項ノ規定ハ清算剩餘金ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第九條 特別法人税ノ税率ハ百分ノ二十トス

第九條 特別法人税ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

一 各事業年度ノ剩餘金 百分ノ二十二

二 清算剩餘金 百分ノ二十二

清算剩餘金額ヲ左ノ如ク區分シ各税率ヲ適用ス

積立金ヨリ成ル金額 百分ノ二十六

其ノ他ノ金額 百分ノ四十二

所得税ヲ課セラレザル法人ノミヲ以テ組織スル特別ノ法人ノ清算

剩餘金ニ對スル特別法人税ハ前項ノ規定ニ拘ラズ清算剩餘金中積

立金ヨリ成ル金額以外ノ金額ノ百分ノ二十二ニ相當スル金額ヲ以

テ其ノ税額トス

第九條ノ二 本法ニ於テ積立金トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問

ハズ特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金中其ノ留保シタル金額ヲ謂

フ

特別法人税トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之

ヲ算入セズ

### 營業税法

#### 改正法

第十二條 命令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造、採掘又ハ採取ヲ業

トスル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ

開始シタル年及其ノ翌年ヨリ三年間(法人ニ付テハ當該事業ヲ開

始シタル事業年度及其ノ翌事業年度開始ノ日ヨリ三年以内ニ終了

スル事業年度ニ於テ)其ノ營業ヨリ生ズル純益ニ付營業税ヲ免除ス

第二十五條 (第一項省略)

個人ノ營業税ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納税

義務者營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後納税管理人ノ申告ヲ爲サズ

シテ本法施行地ニ住所及居所ヲ有セザルニ至ルトキハ直ニ其ノ營

業税ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 翌年二月一日ヨリ末日限

#### 現行法

第十二條 命令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造、採掘又ハ採取ヲ業

トスル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ

開始シタル年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生ズル純益ニ付

營業税ヲ免除ス

第二十五條 (第一項省略)

個人ノ營業税ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納税

義務者營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後納税管理人ノ申告ヲ爲サズ

シテ本法施行地ニ住所及居所ヲ有セザルニ至ルトキハ直ニ其ノ營

業税ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

# 臨時利得税法

## 改正法

### 第二十六條 (第一項省略)

個人ノ利得ニ付テハ臨時利得税ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徴收ス但シ納税義務者納税管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得税ヲ徴收スルコトヲ得

第一期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第二期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

## 現行法

### 第二十六條 (第一項省略)

個人ノ利得ニ付テハ臨時利得税ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徴收ス但シ納税義務者納税管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得税ヲ徴收スルコトヲ得

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

# 地 租 法

## 改 正 法

第十一條 地租ノ納期ハ毎年十一月一日ヨリ三十日限トス

特別ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ納期ヲ定ムルコトヲ得

第七十一條 前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ毎年

三月中ニ住所都市町村ヲ經由シ稅務署長ニ申請スベシ

前項ノ申請期間經過後新ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタル田畑ニ付テハ翌年以降第一項ノ規定ニ依ル申請ヲ爲スコトヲ要セズ

第七十三條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル土地ノ賃貸價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但シ賃貸價格ノ合計金額ガ十圓ニ滿タザルトキハ地租ヲ徵收セズ

## 現 行 法

第十一條 地租ハ毎年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一 田租 翌年一月一日ヨリ三十一日限

二 其ノ他 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

特別ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ納期ヲ定ムルコトヲ得

第七十一條 前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ毎年

三月中ニ住所都市町村ヲ經由シ稅務署長ニ申請スベシ

前項ノ申請期間經過後新ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタル田畑ニ付テハ翌年以降第一項ノ規定ニ依ル申請ヲ爲スコトヲ要セズ

第七十三條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル田ノ賃貸價格ノ合計金額ト田以外ノ土地ノ賃貸價格ノ合計金額トニ依リ各別ニ算出シ之ヲ徵收ス但シ合計金額ガ五圓ニ滿タザルモノニ付テハ地租ヲ徵收セズ



第七十三條ノ二 同一市町村内ニ於ケル土地ニ付納付スベキ地租額ガ命令ヲ以テ定ムル金額ヲ超ユルトキハ其ノ二分ノ一ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ二月内其ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十四條 市町村ハ地租ノ納期開始前十五日迄ニ賃賃價格及地租ノ總額ヲ稅務署長ニ報告スベシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スベシ

第七十三條ノ二 同一市町村内ニ於ケル土地ニ納付スベキ各納期ニ於ケル地租額ガ命令ヲ以テ定ムル金額ヲ超ユルトキハ其ノ二分ノ一ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ二月内其ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十四條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃賃價格及地租ノ總額ヲ稅務署長ニ報告スベシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スベシ

### 通行稅法

#### 改正法

第二條 通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス但シ乘車船區間ノ行程ガ千二百軒ヲ超ユルトキハ之ヲ千二百軒トシテ左ノ稅率ヲ適用ス

- 一等 乘車船區間ノ行程一軒又ハ其ノ端數ニ付 四錢
  - 二等 乘車船區間ノ行程一軒又ハ其ノ端數ニ付 二錢
  - 三等 乘車船區間ノ行程一軒又ハ其ノ端數ニ付 五厘
- 定期乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
- 一 契約期間一月ナルトキ
    - 一等 乘車船區間ノ行程一軒又ハ其ノ端數ニ付 二十錢
    - 二等 乘車船區間ノ行程一軒又ハ其ノ端數ニ付 十錢

#### 現行法

第二條 通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス但シ乘車船區間ノ行程ガ千二百軒ヲ超ユルトキハ之ヲ千二百軒トシテ左ノ稅率ヲ適用ス

- 一等 乘車船區間ノ行程一軒又ハ其ノ端數ニ付 二錢五厘
  - 二等 乘車船區間ノ行程一軒又ハ其ノ端數ニ付 一錢二厘五毛
  - 三等 乘車船區間ノ行程一軒又ハ其ノ端數ニ付 二厘五毛
- 定期乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
- 一 契約期間一月ナルトキ
    - 一等 乘車船區間ノ行程一軒又ハ其ノ端數ニ付 十二錢
    - 二等 乘車船區間ノ行程一軒又ハ其ノ端數ニ付 六錢

二 契約期間一月ヲ超ユルトキ

前號ノ規定ニ依ル税額ニ契約月數ヲ乗ジタル金額

(第三項以下省略)

第二條ノ二 區間制ニ依リ運賃ヲ定メタル線路(路線及航路ヲ含ム

以下本條ニ於テ同ジ)ニシテ命令ノ定ムルモノニ付テハ通行税ハ

前條第一項ノ規定ニ拘ラズ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一 乘車船區間ノ行程三十糎以下ナルトキ

一等

八十錢

二等

四十錢

三等

十錢

二 乘車船區間ノ行程三十糎ヲ超ユルトキ

一等 八十錢ニ三十糎ヲ超ユル二十糎又ハ其ノ端數毎ニ八十錢

ヲ加ヘタル金額

二等 四十錢ニ三十糎ヲ超ユル二十糎又ハ其ノ端數毎ニ四十錢

ヲ加ヘタル金額

三等 十錢ニ三十糎ヲ超ユル二十糎又ハ其ノ端數毎ニ十錢ヲ加

ヘタル金額

(第二項以下省略)

二 契約期間一月ヲ超ユルトキ

前號ノ規定ニ依ル税額ニ契約月數ヲ乗ジタル金額

(第三項以下省略)

第二條ノ二 區間制ニ依リ運賃ヲ定メタル線路(路線及航路ヲ含ム

以下本條ニ於テ同ジ)ニシテ命令ノ定ムルモノニ付テハ通行税ハ

前條第一項ノ規定ニ拘ラズ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一 乘車船區間ノ行程三十糎以下ナルトキ

一等

五十錢

二等

二十五錢

三等

五錢

二 乘車船區間ノ行程三十糎ヲ超ユルトキ

一等 五十錢ニ三十糎ヲ超ユル二十糎又ハ其ノ端數毎ニ五十錢

ヲ加ヘタル金額

二等 二十五錢ニ三十糎ヲ超ユル二十糎又ハ其ノ端數毎ニ二十

五錢ヲ加ヘタル金額

三等 五錢ニ三十糎ヲ超ユル二十糎又ハ其ノ端數毎ニ五錢ヲ加

ヘタル金額

(第二項以下省略)

### 酒 稅 法

#### 改 正 法

第二十七條 酒稅ノ稅率左ノ如シ

一 清酒

第一級 一石ニ付

千二百四十五圓

第二級 一石ニ付

五百八十五圓

二 合成清酒

一石ニ付

五百四十五圓

三 濁酒

一石ニ付

三百五十圓

四 白酒

一石ニ付

千五十圓

五 味淋

一石ニ付

七百五十五圓

六 燒酎

一石ニ付

五百七十圓

#### 現 行 法

第二十七條 酒稅ノ稅率左ノ如シ

一 清酒

第一級 一石ニ付

九百九十五圓

第二級 一石ニ付

六百二十圓

第三級 一石ニ付

三百四十圓

二 合成清酒

第一級 一石ニ付

四百四十五圓

第二級 一石ニ付

三百十圓

第三級 一石ニ付

二百圓

三 濁酒

一石ニ付

六百圓

四 白酒

一石ニ付

四百二十五圓

五 味淋

一石ニ付

三百四十圓

六 燒酎

一石ニ付

三百四十圓

アルコール分二十五度ヲ超ユルトキハ  
アルコール分二十五度ヲ超ユル一度毎  
ニ二十圓ヲ加フ

七 麥酒 一石ニ付 四百五十圓

八 果實酒  
第一級 一石ニ付 七百五十圓  
第二級 一石ニ付 四百圓  
第三級 一石ニ付 三百三十圓

九 雜酒  
第一級 一石ニ付 千二百圓  
第二級 一石ニ付 千圓

第三級 一石ニ付 千圓  
アルコール分二十度ヲ超ユルトキハ  
ルコール分二十度ヲ超ユル一度毎ニ六  
十七圓ヲ加フ

第四級 一石ニ付 七百圓  
アルコール分二十度ヲ超ユルトキハ  
ルコール分二十度ヲ超ユル一度毎ニ五  
十五圓ヲ加フ

命令ヲ以テ定ムルアルコール分ヲ超エアルコール分五十度ヲ超エ  
ザル酒類(麥酒ヲ除ク)ニ付テハ前項及第二十七條ノ二ノ規定ニ  
依ル金額ヲ命令ヲ以テ定ムルアルコール分(指定アルコール分ト

七 麥酒 一石ニ付 二百八十圓

八 果實酒  
第一級 一石ニ付 四百十圓  
第二級 一石ニ付 三百圓  
第三級 一石ニ付 二百五十圓

九 雜酒  
第一級 一石ニ付 千圓  
第二級 一石ニ付 六百圓

第三級 一石ニ付 六百圓  
アルコール分二十度ヲ超ユルトキハ  
ルコール分二十度ヲ超ユル一度毎ニ四  
十二圓ヲ加フ

第四級 一石ニ付 四百圓  
アルコール分二十度ヲ超ユルトキハ  
ルコール分二十度ヲ超ユル一度毎ニ四  
十圓ヲ加フ

左ニ掲グル酒類ニシテ命令ヲ以テ定ムルアルコール分ヲ超エアル  
コール分五十度ヲ超エザルモノニ課スベキ酒稅ノ稅率ハ前項ノ規  
定ニ拘ラズ一石ニ付同項ニ規定スル金額ニ命令ヲ以テ定ムルアル

稱ス以下同ジ)ノ度數ヲ以テ除シテ得タル金額ノ百分ノ百二十ニ  
相當スル金額ヲ指定アルコール分ヲ超ユル一度毎ニ前項ノ規定ニ  
依ル酒稅額ニ加算ス

コール分ヲ超ユル一度毎ニ左ニ掲グル金額ヲ加ヘタル金額ニ依  
ル

一 清酒

第一級 七十五圓  
第二級 四十七圓  
第三級 二十八圓

二 合成清酒

第一級 三十四圓  
第二級 二十五圓

三 濁酒

二百四十圓  
二百二十圓

四 白酒

四十七圓  
四十七圓

五 味淋

四百七十圓  
四百七十圓

六 果實酒

第一級 百五十圓  
第二級 四十三圓  
第三級 四十三圓

七 雜酒

第一級 二百圓

アルコール分五十度ヲ超ユル各酒類ニ課スベキ酒税ノ税率ハ第一  
項ノ規定ニ拘ラズ一石ニ付アルコール分一度毎ニ五十三圓ノ割合  
ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

各酒類ノ級別ハ酒類委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ定ム

酒類委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條ノ二 左ニ掲グル果實酒及雜酒ニ付テハ命令ヲ以テ定ム  
ル價格ニ左ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ前條ノ規定ニ依ル酒  
税額ニ加算ス

一 果實酒

第一級 百分ノ百

二 雜酒

第一級 百分ノ四百

第二級 百分ノ百

第二十七條ノ三 左ニ掲グル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其  
ノ酒税ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

一 政府ノ承認ヲ受ケ命令ヲ以テ定ムルアルコール又ハ酒類ヲ原

第二級 百二十圓  
第三級 七十二圓  
第四級 四十八圓

アルコール分五十度ヲ超ユル各酒類ニ課スベキ酒税ノ税率ハ第一  
項ノ規定ニ拘ラズ一石ニ付アルコール分一度毎ニ三十六圓ノ割合  
ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

各酒類ノ級別ハ酒類委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ定ム

酒類委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條ノ二 左ニ掲グル果實酒及雜酒ニ付テハ命令ヲ以テ定ム  
ル價格ニ左ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ前條ノ規定ニ依ル酒  
税額ニ加算ス

一 果實酒

第一級 百分ノ百

二 雜酒

第一級 百分ノ三百

第二級 百分ノ百

第二十七條ノ三 左ニ掲グル酒類ニシテ大藏大臣ノ定ムル用途ニ充  
ツル爲命令ノ定ムル所ニ依リ製造場ヨリ移出スルモノニ付テハ第  
二十七條ニ規定スル税率ニ依リ算出シタル金額ト左ノ割合ニ依リ

料トシテ製造シタルモノ

二 政府ノ承認ヲ受ケ酒類製造ノ原料ニ供スル爲製造シタルモノ

算出シタル金額トノ差額ニ相當スル酒税ヲ輕減ス

一 清酒

第三級 一石ニ付 二百十五圓

二 合成清酒

第二級 一石ニ付 百九十圓

三 燒酎

一石ニ付 二百十圓

四 麥酒

一石ニ付 百八十三圓

前項ノ酒類ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受クルニ非ザレ  
バ其ノ用途ヲ變更スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ承認ヲ  
受ケタル者ヨリ直ニ第一項ノ輕減額ニ相當スル酒税ヲ徵收ス

命令ヲ以テ定ムル者ガ第二十七條ニ規定スル税率ニ依リ酒税ヲ課  
セラレタル酒類ヲ第一項ノ用途ニ充ツル爲販賣ヲ爲シタルトキハ  
命令ノ定ムル所ニ依リ同項ノ輕減額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二十七條ノ四 左ニ掲グル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其  
ノ酒税ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

一 政府ノ承認ヲ受ケ命令ヲ以テ定ムルアルコール又ハ酒類ヲ原  
料トシテ製造シタルモノ

二 政府ノ承認ヲ受ケ酒類製造ノ原料ニ供スル爲製造シタルモノ

第三十五條 酒類ノ製造者ハ毎月製造場ヨリ移出シタル酒類ノ種

類、級別及命令ヲ以テ定ムルアルコト分毎ニ石數(第二十七條ノ二ニ規定スル酒類ニ付テハ數量及價格)ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ直ニ其ノ移出シ又ハ移出シタルモノト看做サレタル酒類ニ付申告書ヲ提出スベシ

一 酒類製造ノ免許ヲ取消サレタルトキ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク

二 酒類ガ公賣若ハ競賣セラレタルトキ又ハ破産手續ニ於テ換價セラレタルトキ

酒類ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ引取ノ際前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ移出又ハ引取ノ石數(第二十七條ノ二ニ規定スル酒類ニ付テハ數量及價格)ヲ決定ス

第六十二條 削除

第三十五條 酒類ノ製造者ハ毎月製造場ヨリ移出シタル酒類ノ種

類、級別及命令ヲ以テ定ムルアルコト分毎ニ石數(第二十七條ノ二ニ規定スル酒類ニ付テハ數量及價格)ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ直ニ其ノ移出シ又ハ移出シタルモノト看做サレタル酒類ニ付申告書ヲ提出スベシ

一 酒類製造ノ免許ヲ取消サレタルトキ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク

二 酒類ガ公賣若ハ競賣セラレタルトキ又ハ破産手續ニ於テ換價セラレタルトキ

酒類ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ引取ノ際前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ移出又ハ引取ノ石數(第二十七條ノ二ニ規定スル酒類ニ付テハ數量及價格)ヲ決定ス

第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ當該酒稅輕減額又ハ交付金額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス

一 第二十七條ノ三第二項ノ規定ニ違反シ同條第一項ノ規定ノ適

用ヲ受ケタル酒類ヲ其ノ用途以外ノ用途ニ使用若ハ消費シ又ハ讓渡シタル者

二 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ第二十七條ノ三第四項ノ規定ニ依ル金額ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者

前項第一號ノ酒類ニ付テハ使用若ハ消費シ又ハ讓渡シタル者ヨリ直ニ第二十七條ノ三第一項ノ輕減額ニ相當スル酒稅ヲ徵收ス

第六十三條 第六十一條、前條又ハ第六十八條ノ罪ヲ犯シタル者ハ因リ五年以下ノ懲役若ハ酒稅、酒稅輕減額若ハ交付金額五倍ヲ超エ十倍以下ニ相當スル罰金ニ處シ又ハ懲役及罰金ヲ併科スルコト得

第六十一條第一項、前條第一項、第六十八條第二項及前項ノ場合ニ於テ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第六十六條 第六十條第一項、第六十一條第一項、第六十二條第一項又ハ第六十八條第二項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ但シ第六十條第二項及第六十三條第二項ノ場合ニ於テ懲役ノ刑ニ處スルトキ

第六十三條 第六十一條又ハ第六十八條ノ罪ヲ犯シタル者ハ因リ五年以下ノ懲役若ハ酒稅五倍ヲ超エ十倍以下ニ相當スル罰金ニ處シ又ハ懲役及罰金ヲ併科スルコト得

第六十一條第一項、第六十八條第二項及前項ノ場合ニ於テ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第六十一條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第六十六條 第六十條第一項、第六十一條第一項又ハ第六十八條第二項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第三項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ但シ第六十條第二項及第六十三條第一項ノ場合ニ於テ懲役ノ刑ニ處スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第六十條、第六十一條、第六十三條、第六十四條、第六十五條又ハ第六十八條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科スルノ外行爲者ヲ處罰ス但シ行爲者ニ付テハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第八十三條 東京都小笠原島及伊豆七島ニ於テ製造スル清酒及燒酎ニシテアルコール分五十度ヲ超エザルモノノ酒税ハ當分ノ内左ノ税率ニ依ル

一 清酒 一石ニ付 五百三十圓

命令ヲ以テ定ムルアルコール分ヲ超ユルトキハ命令ヲ以テ定ムルアルコール分ヲ超ユル一度毎ニ四十三圓ヲ加フ

二 燒酎 一石ニ付 五百十五圓

アルコール分二十五度ヲ超ユルトキハアルコール分二十五度ヲ超ユル一度毎ニ二十五圓ヲ加フ

前項ノ酒類ハ之ヲ内地ノ他ノ地方、朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ移出スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シ酒類ヲ移出シタル者ハ其ノ移出酒類ニ付第二

ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第六十條乃至第六十三條、第六十四條、第六十五條又ハ第六十八條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科スルノ外行爲者ヲ處罰ス但シ行爲者ニ付テハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第八十三條 東京都小笠原島及伊豆七島ニ於テ製造スル清酒及燒酎ニシテアルコール分五十度ヲ超エザルモノノ酒税ハ當分ノ内左ノ税率ニ依ル

一 清酒 一石ニ付 二百八十五圓

命令ヲ以テ定ムルアルコール分ヲ超ユルトキハ命令ヲ以テ定ムルアルコール分ヲ超ユル一度毎ニ二十四圓ヲ加フ

二 燒酎 一石ニ付 二百八十五圓

アルコール分二十五度ヲ超ユルトキハアルコール分二十五度ヲ超ユル一度毎ニ二十七圓ヲ加フ

前項ノ酒類ハ之ヲ内地ノ他ノ地方、朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ移出スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シ酒類ヲ移出シタル者ハ其ノ移出酒類ニ付第二

十七條ノ清酒第二級又ハ燒酎ノ税率ニ依リ算出シタル酒税額ト第一項ノ税率ニ依リ算出シタル酒税額トノ差額ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ酒類及容器ハ之ヲ沒收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第六十三條第一項及第六十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第一項ニ規定スル地方ニ於テ製造シタル清酒及燒酎ニ付第七十八條又ハ第七十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ一石ニ付十圓ノ割合ニ依リ算出シタル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第八十四條 沖繩縣ニ於テ製造スル燒酎ニシテアルコール分五十度ヲ超エザルモノニ課スベキ酒税ノ税率ハ當分ノ内一石ニ付五百五十八圓（アルコール分二十五度ヲ超ユルトキハ五百五十八圓ニアルアルコール分二十五度ヲ超ユル一度毎ニ二十六圓五十錢ヲ加ヘタル金額）トス

十七條ノ清酒第三級又ハ燒酎ノ税率ニ依リ算出シタル酒税額ト第一項ノ税率ニ依リ算出シタル酒税額トノ差額ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ酒類及容器ハ之ヲ沒收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第六十三條第一項及第六十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第一項ニ規定スル地方ニ於テ製造シタル清酒及燒酎ニ付第七十八條又ハ第七十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ一石ニ付十圓ノ割合ニ依リ算出シタル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第八十三條ノ二 前條第一項ノ酒類ニ付第二十七條ノ三ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ同條第一項ノ規定ニ依ル酒税ノ輕減額又ハ同條第四項ノ規定ニ依ル交付金額ハ前條第一項ニ規定スル税率ニ依リ算出シタル金額ト一石ニ付百六十五圓ノ割合ニ依リ算出シタル金額トノ差額ニ相當スル金額トス

第八十四條 沖繩縣ニ於テ製造スル燒酎ニシテアルコール分五十度ヲ超エザルモノニ課スベキ酒税ノ税率ハ當分ノ内一石ニ付三百二十八圓（アルコール分二十五度ヲ超ユルトキハ三百二十八圓ニアルアルコール分二十五度ヲ超ユル一度毎ニ十九圓五十錢ヲ加ヘタル金額）トス

本法施行前又ハ施行後沖繩縣ニ於テ製造シタル焼酎ヲ内地ノ他ノ地方、朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ移出スルトキハ其ノ焼酎ニ付第二十七條ノ稅率ニ依リ算出シタル酒稅ノ稅額ト前項ノ稅率ニ依リ算出シタル酒稅ノ稅額トノ差額ニ相當スル出港稅ヲ課ス

樽太酒類出港稅法第三條乃至第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

前項ノ燒酎ニ付第二十七條ノ三ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ同條第一項中二百十圓トアルハ百九十八圓トス

本法施行前又ハ施行後沖繩縣ニ於テ製造シタル燒酎ヲ内地ノ他ノ地方、朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ移出スルトキハ其ノ燒酎ニ付第二十七條ノ稅率ニ依リ算出シタル酒稅ノ稅額ト第一項ノ稅率ニ依リ算出シタル酒稅ノ稅額トノ差額ニ相當スル出港稅ヲ課ス

樽太酒類出港稅法第三條乃至第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

### 遊興飲食稅法

#### 改正法

第二條 遊興飲食稅ノ稅率左ノ如シ

- 一 藝妓ノ花代 料金ノ百分ノ三百
- 二 藝妓ノ花代ニ類スル料金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ(以下其ノ他ノ花代ト稱ス) 料金ノ百分ノ百二十
- 三 藝妓ノ花代又ハ其ノ他ノ花代ヲ伴フ遊興飲食又ハ宿泊(洋式ノ旅館以外ノ旅館ニ於ケル宿泊ニ付テハ飲食ヲ含ム以下同ジ)ノ料金但シ藝妓ノ花代及其ノ他ノ花代ヲ除ク 料金ノ百分ノ百
- 四 命令ヲ以テ定ムル料理店ニ於ケル遊興飲食ノ料金但シ藝妓ノ花代及其ノ他ノ花代ヲ除ク 料金ノ百分ノ百二十
- 五 前各號及第七號以外ノ遊興飲食ノ料金
  - イ 一人一回二圓五十錢ニ滿タザルモノ 料金ノ百分ノ三十
  - ロ 一人一回五圓ニ滿タザルモノ 料金ノ百分ノ五十
  - ハ 一人一回五圓以上ノモノ 料金ノ百分ノ八十
- 六 洋式ノ旅館ニ於ケル宿泊ノ料金但シ第三號ニ該當スル場合ヲ

#### 現行法

第二條 遊興飲食稅ノ稅率左ノ如シ

- 一 藝妓ノ花代 料金ノ百分ノ三百
- 二 藝妓ノ花代ニ類スル料金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ(以下其ノ他ノ花代ト稱ス) 料金ノ百分ノ百二十
- 三 藝妓ノ花代又ハ其ノ他ノ花代ヲ伴フ遊興飲食ノ料金但シ藝妓ノ花代及其ノ他ノ花代ヲ除ク 料金ノ百分ノ百
- 四 命令ヲ以テ定ムル料理店ニ於ケル遊興飲食ノ料金但シ藝妓ノ花代及其ノ他ノ花代ヲ除ク 料金ノ百分ノ百二十
- 五 前各號以外ノ遊興飲食ノ料金
  - イ 一人一回二圓五十錢ニ滿タザルモノ 料金ノ百分ノ三十
  - ロ 一人一回五圓ニ滿タザルモノ 料金ノ百分ノ五十
  - ハ 一人一回五圓以上ノモノ 料金ノ百分ノ八十
- 六 旅館ニ於ケル宿泊ノ料金

除ク

- イ 一人一泊五圓ニ滿タザルモノ 料金ノ百分ノ二十
- ロ 一人一泊十圓ニ滿タザルモノ 料金ノ百分ノ四十
- ハ 一人一泊十圓以上ノモノ 料金ノ百分ノ七十
- 七 洋式ノ旅館以外ノ旅館ニ於ケル宿泊ノ料金但シ第三號ニ該當スル場合ヲ除ク

イ 命令ヲ以テ定ムル一人一泊ノ料金(以下普通宿泊料ト稱ス)

ガ七圓ニ滿タザル宿泊 料金ノ百分ノ二十

ロ 普通宿泊料ガ十二圓ニ滿タザル宿泊 料金ノ百分ノ四十

ハ 普通宿泊料ガ十二圓以上ノ宿泊 料金ノ百分ノ七十

一人一泊ノ宿泊ノ料金中普通宿泊料ヲ超ユル金額ニ付テハ百分ノ十ヲ加算シタル税率ニ依ル

前項ノ洋式ノ旅館ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

命令ヲ以テ定ムル料理店ニ於ケル第一項第五號ノ遊興飲食ノ料金ニシテ一人一回十圓ニ滿タザルモノニ付テハ同號ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依ル

一 一人一回二圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 四十五錢

二 一人一回二圓五十錢ニ滿タザルモノ

一人一回ニ付 六十錢

- イ 一人一泊五圓ニ滿タザルモノ 料金ノ百分ノ二十
- ロ 一人一泊十圓ニ滿タザルモノ 料金ノ百分ノ四十
- ハ 一人一泊十圓以上ノモノ 料金ノ百分ノ七十

命令ヲ以テ定ムル料理店ニ於ケル前項第五號ノ遊興飲食ノ料金ニシテ一人一回五圓ニ滿タザルモノニ付テハ同號ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依ル

一 一人一回二圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 四十五錢

二 一人一回二圓五十錢ニ滿タザルモノ

一人一回ニ付 六十錢

- 三 一人一回三圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 一圓二十五錢
- 四 一人一回四圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 一圓五十錢
- 五 一人一回五圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 二圓
- 六 一人一回六圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 四圓
- 七 一人一回八圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 五圓五十錢
- 八 一人一回十圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 七圓五十錢

第一項及第三項ノ遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ハ前條第一項ニ規定スル場所ノ經營者ガ遊興、飲食又ハ宿泊ヲ爲シタル者ヨリ其ノ遊興、飲食又ハ宿泊ニ付領收スベキ金額ヲ謂フ

遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 遊興飲食ノ料金ガ一人一回一圓五十錢ニ滿タザル場合、洋式ノ旅館ニ於ケル宿泊ノ料金ガ一人一泊三圓ニ滿タザル場合及洋

式ノ旅館以外ノ旅館ニ於ケル普通宿泊料ガ四圓五十錢ニ滿タザル場合ニハ遊興飲食稅ヲ課セズ但シ左ニ掲グル遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 藝妓ノ花代

二 其ノ他ノ花代

三 藝妓ノ花代又ハ其ノ他ノ花代ヲ伴フ遊興飲食又ハ宿泊ノ料金

四 命令ヲ以テ定ムル料理店ニ於ケル遊興飲食ノ料金

- 三 一人一回三圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 一圓二十五錢
- 四 一人一回四圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 一圓五十錢
- 五 一人一回五圓ニ滿タザルモノ 一人一回ニ付 二圓

前二項ノ遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ハ前條第一項ニ規定スル場所ノ經營者ガ遊興、飲食又ハ宿泊ヲ爲シタル者ヨリ其ノ遊興、飲食又ハ宿泊ニ付領收スベキ金額ヲ謂フ

遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 遊興飲食ノ料金ガ一人一回一圓五十錢ニ滿タザル場合及旅館ニ於ケル宿泊ノ料金ガ一人一泊三圓ニ滿タザル場合ニハ遊興飲

食稅ヲ課セズ但シ左ニ掲グル遊興飲食ノ料金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 藝妓ノ花代

二 其ノ他ノ花代

三 藝妓ノ花代又ハ其ノ他ノ花代ヲ伴フ遊興飲食ノ料金

四 命令ヲ以テ定ムル料理店ニ於ケル遊興飲食ノ料金



五 洋式ノ旅館以外ノ旅館ニ於ケル普通宿泊料ガ四圓五十錢ニ滿  
 タザルモ一人一泊ニ付領收スベキ宿泊ノ料金ガ四圓五十錢以上  
 ト爲リタル場合ノ宿泊ノ料金

### 入場税法

#### 改正法

第三條 入場税ノ税率左ノ如シ

第一種ノ場所

入場料ガ一人一回一圓未滿ノモノ	入場料ノ百分ノ百
入場料ガ一人一回一圓以上ノモノ	入場料ノ百分ノ二百
回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタルモノ	入場料ノ百分ノ百五十

第二種ノ場所

撞球場、スケート場、第二種第三號ノ場所

入場料ノ百分ノ百
入場料ノ百分ノ百五十
入場料ノ百分ノ二百

麻雀場  
 ゴルフ場

#### 現行法

第三條 入場税ノ税率左ノ如シ

第一種ノ場所

入場料ガ一人一回五十錢未滿ノモノ	入場料ノ百分ノ三十
入場料ガ一人一回一圓未滿ノモノ	入場料ノ百分ノ六十
入場料ガ一人一回三圓未滿ノモノ	入場料ノ百分ノ百
入場料ガ一人一回五圓未滿ノモノ	入場料ノ百分ノ百五十
入場料ガ一人一回五圓以上ノモノ	入場料ノ百分ノ二百
回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタルモノ	入場料ノ百分ノ百五十
入場料ガ一人一回一圓未滿ノモノ	入場料ノ百分ノ百
入場料ガ一人一回一圓以上ノモノ	入場料ノ百分ノ百五十

第二種ノ場所

撞球場、スケート場、第二種第三號ノ場所

入場料ノ百分ノ四十
入場料ノ百分ノ八十
入場料ノ百分ノ百五十

麻雀場  
 ゴルフ場

本法ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、映畫、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル者ヨリ其ノ入場又ハ設備ノ利用ニ付取得スベキ金額ヲ謂フ  
入場料ノ算定ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

### 骨牌稅法

#### 政 正 法

- 第五條 骨牌稅ハ骨牌ノ包裝ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ骨牌ノ包裝ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得
- 第六條 骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間内又ハ保税地域ヨリ引取前ニ於テ一組毎ニ包裝ヲ施シ貼用印紙又ハ納稅濟證印ノ印影ヲ破毀スルニ非サレバ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第九條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ナキ若ハ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケサル骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス
- 第十條 相當印紙ノ貼用ナキ若ハ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケサル骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ保税地域ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス
- 第十五條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ又ハ納

四四  
本法ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ催物（第一種ノ場所ニ於ケル演劇、映畫、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ）若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル者ヨリ其ノ入場又ハ設備ノ利用ニ付取得スベキ金額ヲ謂フ  
入場料ノ算定ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

#### 現 行 法

- 第五條 骨牌稅ハ骨牌ノ包裝ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
- 第六條 骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間内又ハ保税地域ヨリ引取前ニ於テ一組毎ニ包裝ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレバ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第九條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス
- 第十條 相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ保税地域ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス
- 第十五條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ

税済證印ノ押捺ヲ受ケサル骨牌ヲ讓渡シタルトキハ脱税高二十倍ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ情狀ニ依リ五年以下ノ懲役ニ處シ又ハ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

第一項及第二項ノ場合ニ於テハ其ノ骨牌ヲ沒收ス

第十六條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ又ハ納税済證印ノ押捺ヲ受ケサル骨牌ヲ所持シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

### 臨時租稅措置法

#### 改正法

第一條 當分ノ内本法ニ依リ所得稅、法人稅、特別法人稅、營業稅、砂糖消費稅、登録稅、鑛區稅及臨時利得稅ヲ輕減若ハ免除シ又ハ其ノ課稅標準ノ計算若ハ其ノ徵收ニ關スル特例ヲ設ク

第一條ノ三 所得稅法第五條、法人稅法第十二條及營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ指定シタル物產ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備増設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間(法人ニ付テハ設備ヲ増設シタル事業年度及其ノ翌事業年度開始ノ日ヨリ三年以内ニ終了スル事業年度ニ於テ)其ノ増設シタル設備ニ依ル物產ノ製造、採掘又ハ採取ノ業務ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得稅、法人稅及營業稅ヲ免除ス  
命令ヲ以テ指定スル製造方法ニ依ル物產ノ製造ヲ開始シタル者又ハ其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造開始又ハ設備増設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間(法人ニ付テハ製造ヲ開始シ又ハ設備ヲ増設シタル事業年度及其ノ翌事業年度開始ノ日ヨリ三年以内ニ終了スル事業年度ニ於テ)其ノ製造方法ニ依ル物產ノ

讓渡シタルトキハ脱税高二十倍ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ情狀ニ依リ五年以下ノ懲役ニ處シ又ハ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ罰金額ガ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

第一項及第二項ノ場合ニ於テハ其ノ骨牌ヲ沒收ス

第十六條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ所持シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

#### 現行法

第一條 當分ノ内本法ニ依リ所得稅、法人稅、特別法人稅、田畑地租、營業稅、砂糖消費稅、登録稅、鑛區稅及臨時利得稅ヲ輕減若ハ免除シ又ハ其ノ課稅標準ノ計算ニ關スル特例ヲ設ク

第一條ノ三 所得稅法第五條、法人稅法第十二條及營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ指定シタル物產ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備増設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ増設シタル設備ニ依ル物產ノ製造、採掘又ハ採取ノ業務ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得稅、法人稅及營業稅ヲ免除ス  
命令ヲ以テ指定スル製造方法ニ依ル物產ノ製造ヲ開始シタル者又ハ其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造開始又ハ設備増設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ製造方法ニ依ル物產ノ製造業務又ハ其ノ増設シタル設備ニ依ル物產ノ製造業務ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得稅、法人稅及營業稅ヲ免除ス

製造業務又ハ其ノ増設シタル設備ニ依ル物産ノ製造業務生ヨリズル所得及純益ニ付所得税、法人税及營業稅ヲ免除ス

第一條ノ四 左ニ掲グル事項ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利得ノ計算ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

- 一 命令ヲ以テ指定スル國庫補助金ノ收入
- 二 命令ヲ以テ指定スル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出
- 三 命令ヲ以テ指定スル事業ノ用ニ供スル建物（工場用以外ノ建物ヲ除ク）、機械其ノ他ノ設備及船舶ノ價額ノ償却
- 四 命令ヲ以テ指定スル價格平衡資金ヘノ繰入金
- 五 法人ガ額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於ケル其ノ額面ヲ超ユル金額
- 六 法人ノ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於ケル資産ノ評價換ニ因ル益金
- 七 命令ヲ以テ定ムル特別價格報獎金ノ收入
- 八 其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノ

第一條ノ八 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル生命保險會社ノ甲種ノ配當利子所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十

第一條ノ四 左ニ掲グル事項ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

- 一 命令ヲ以テ指定スル國庫補助金ノ收入
- 二 命令ヲ以テ指定スル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出
- 三 命令ヲ以テ指定スル事業ノ用ニ供スル建物（工場用以外ノ建物ヲ除ク）、機械其ノ他ノ設備及船舶ノ價額ノ償却
- 四 命令ヲ以テ指定スル價格平衡資金ヘノ繰入金
- 五 法人ガ額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於ケル其ノ額面ヲ超ユル金額
- 六 法人ノ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於ケル資産ノ評價換ニ因ル益金
- 七 命令ヲ以テ定ムル特別價格報獎金ノ收入

第一條ノ八 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル生命保險會社ノ甲種ノ配當利子所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十

四年十二月三十一日以前ヨリ引續キ所有スル株式ニ對スル利益又ハ利息ノ配當ニ限リ所得稅法第二十一條ニ規定スル稅率百分ノ二十二ヲ百分ノ十八トシタル場合ノ差減額ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ九 命令ヲ以テ定ムル預金、貯金、公債若ハ社債又ハ合同運用信託ノ利子又ハ利益ニシテ個人ノ受クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ利子又ハ利益金額ノ百分ノ六ニ相當スル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ十 所得稅法第二十一條第四項ニ規定スル預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニ付テハ同項及第二十二條第一項ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ百分ノ六乃至百分ノ七ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課スルコトヲ得

第一條ノ十四 所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法第二十一條ニ規定スル稅率百分ノ二十二ヲ百分ノ十九、同法第二十二條ニ規定スル稅率百分ノ三十九ヲ百分ノ三十六トシタル場合ノ差減額ニ相當スル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ十七 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋

四年十二月三十一日以前ヨリ引續キ所有スル株式ニ對スル利益又ハ利息ノ配當ニ限リ所得稅法第二十一條ニ規定スル稅率百分ノ十九ヲ百分ノ十五トシタル場合ノ差減額ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ九 命令ヲ以テ定ムル預金、貯金、公債若ハ社債又ハ合同運用信託ノ利子又ハ利益ニシテ個人ノ受クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ利子又ハ利益金額ノ百分ノ五ニ相當スル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ十 所得稅法第二十一條第四項ニ規定スル預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニ付テハ同項及第二十二條第一項ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ百分ノ四乃至百分ノ五ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課スルコトヲ得

第一條ノ十四 所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法第二十一條ニ規定スル稅率百分ノ十九ヲ百分ノ十六、同法第二十二條ニ規定スル稅率百分ノ三十六ヲ百分ノ三十三トシタル場合ノ差減額ニ相當スル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ十七 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋

ニ依リ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ昭和二十二年三月三十一日迄ニ合併又ハ解散シタル法人ノ清算所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ法人税法第十六條ニ規定スル税率百分ノ二十六ヲ百分ノ十三、百分ノ四十八ヲ拂込資本金額百萬圓以下ノ法人ニ付テハ百分ノ二十七、拂込資本金額百萬圓ヲ超ユル法人ニ付テハ百分ノ三十二トシタル場合ノ差減額ニ相當スル法人税ヲ輕減ス

第一條ノ十八 法人ガ法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十六年十一月一日以後昭和二十一年三月三十一日迄ニ其ノ事業ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ヲ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ出資又ハ讓渡ヲ爲シタルトキハ其ノ出資又ハ讓渡ニ對シ與ヘラレタル有價證券其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノノ價額ニ關シ出資又ハ讓渡ヲ爲シタル事業年度ニ於ケル法

人税法ニ依ル所得、營業税法ニ依ル純益及臨時利得税法ニ依ル利益ノ計算ニ付命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第一條ノ十九 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ法人ノ積立金ヲ以テ爲シタル利益ノ配當ガ株式ノ拂込又ハ出資ニ充テラレタル場合ニ於テハ當該利益ノ配當ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ十分ノ五ヲ控除シタル金額ニ依リ所得税ヲ賦課ス

第一條ノ二十 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十六年一月一日以後昭和二十一年三月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ營業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シタル個人ノ當該營業ヨリ生ズル所得又ハ純益ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十七年分乃至昭和二十一年分ノ所得税及營業税ニ限り左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス

一 所得税

總所得金額五千圓以下ナルトキ 當該所得税額ノ全部  
同一萬圓以下ナルトキ 當該所得税額ノ十分ノ五

ニ依リ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ合併又ハ解散シタル法人ノ清算所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ法人税法第十六條ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依リ法人税ヲ賦課ス

一 拂込資本金額百萬圓以下ノ法人  
昭和十六年十一月一日以後昭和十八年十二月三十一日迄ニ合併又ハ解散シタルトキ 所得金額ノ百分ノ十五  
昭和十九年一月一日以後昭和二十年三月三十一日迄ニ合併又ハ解散シタルトキ 所得金額ノ百分ノ二十

二 拂込資本金額百萬圓ヲ超ユル法人  
昭和十七年一月一日以後昭和十八年十二月三十一日迄ニ合併又ハ解散シタルトキ 所得金額ノ百分ノ二十  
昭和十九年一月一日以後昭和二十年三月三十一日迄ニ合併又ハ解散シタルトキ 所得金額ノ百分ノ二十五

第一條ノ十八 法人ガ法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十六年十一月一日以後昭和二十年三月三十一日迄ニ其ノ事業ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ヲ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ出資又ハ讓渡ヲ爲シタルトキハ其ノ出資又ハ讓渡ニ對シ與ヘラレタル有價證券其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノノ價額ニ關シ出資又ハ讓渡ヲ爲シタル事業年度ニ於ケ

ル法人税法ニ依ル所得、營業税法ニ依ル純益及臨時利得税法ニ依ル利益ノ計算ニ付命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第一條ノ十九 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十七年四月一日以後昭和二十年三月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ合併又ハ解散シタル場合ニ於テ其ノ株主又ハ社員ノ受クル所得税法第八條ニ規定スル利益ノ配當ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同法第二十一條ニ規定スル税率百分ノ十九ヲ百分ノ十四、同法第二十二條ニ規定スル税率百分ノ三十六ヲ百分ノ三十一トシタル場合ノ差減額ニ相當スル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得税ヲ輕減ス

第一條ノ二十 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十六年一月一日以後昭和二十年三月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ營業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シタル個人ノ當該營業ヨリ生ズル所得又ハ純益ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十七年分乃至昭和二十年分ノ所得税及營業税ニ限り左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス

一 所得税

總所得金額五千圓以下ナルトキ 當該所得税額ノ全部  
同一萬圓以下ナルトキ 當該所得税額ノ十分ノ五

同一萬圓ヲ超ユルトキ 當該所得稅額ノ十分ノ二

同一萬圓ヲ超ユルトキ 當該所得稅額ノ十分ノ二

二 營業稅

純益金額三千圓以下ナルトキ 當該營業稅額ノ全部

純益金額三千圓以下ナルトキ 當該營業稅額ノ全部

同八千圓以下ナルトキ 當該營業稅額ノ十分ノ五

同八千圓以下ナルトキ 當該營業稅額ノ十分ノ五

同八千圓ヲ超ユルトキ 當該營業稅額ノ十分ノ二

同八千圓ヲ超ユルトキ 當該營業稅額ノ十分ノ二

前項ノ規定ハ法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十九年一月一日以後昭和二十一年三月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ營業以外ノ事業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シタル個人ノ當該事業ヨリ生ズル所得ニ付之ヲ準用ス

第一條ノ二十一 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十六年一月一日以後昭和二十一年三月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ合併若ハ解散シタル法人又ハ事業ノ全部若ハ大部分ヲ廢止シタル個人ノ使用人ニシテ退職シタル者ノ當該法人又ハ個人ヨリ受クル俸給、給料、賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十七年分乃至昭和二十一年分ノ乙種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅及綜合所得稅ニ限リ左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス徵用ニ因リ退職シタル者ノ退職前ニ支拂ヲ受ケタル俸給、給料、賞與

第一條ノ二十一 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十六年一月一日以後昭和二十一年三月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ合併若ハ解散シタル法人又ハ事業ノ全部若ハ大部分ヲ廢止シタル個人ノ使用人ニシテ退職シタル者ノ當該法人又ハ個人ヨリ受クル俸給、給料、賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十七年分乃至昭和二十一年分ノ乙種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅及綜合所得稅ニ限リ左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス徵用ニ因リ退職シタル者ノ退職前ニ支拂ヲ受ケタル俸給、給料、賞與

第一條ノ二十一 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十六年一月一日以後昭和二十一年三月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ合併若ハ解散シタル法人又ハ事業ノ全部若ハ大部分ヲ廢止シタル個人ノ使用人ニシテ退職シタル者ノ當該法人又ハ個人ヨリ受クル俸給、給料、賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十七年分乃至昭和二十一年分ノ乙種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅及綜合所得稅ニ限リ左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス徵用ニ因リ退職シタル者ノ退職前ニ支拂ヲ受ケタル俸給、給料、賞與

又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付昭和二十年分以降ノ乙種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅及綜合所得稅亦同ジ

總所得金額五千圓以下ナルトキ 當該所得稅額ノ全部

同一萬圓以下ナルトキ 當該所得稅額ノ十分ノ五

同一萬圓以下ナルトキ 當該所得稅額ノ十分ノ五

同一萬圓ヲ超ユルトキ 當該所得稅額ノ十分ノ二

同一萬圓ヲ超ユルトキ 當該所得稅額ノ十分ノ二

第一條ノ二十二 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十七年一月一日以後昭和二十年十二月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ不動産、不動産上ノ權利（永小作權又ハ地上權ノ設定其ノ他人ヲシテ不動産又ハ不動産上ノ權利ヲ使用セシムル一切ノ場合ヲ含ム以下同ジ）、船舶（製造中ノ船舶ヲ含ム）又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ヲ讓渡シタル個人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十八年分乃至昭和二十二年分ノ讓渡利得ニ限リ當該讓渡ニ因リ生ズル利得金額ヨリ其ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ニ依リ臨時利得稅ヲ賦課ス

第一條ノ二十二 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十七年一月一日以後昭和十九年十二月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ不動産、不動産上ノ權利（永小作權又ハ地上權ノ設定其ノ他人ヲシテ不動産又ハ不動産上ノ權利ヲ使用セシムル一切ノ場合ヲ含ム）、船舶（製造中ノ船舶ヲ含ム）又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ヲ讓渡シタル個人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十八年分乃至昭和二十年分ノ讓渡利得ニ限リ當該讓渡ニ因リ生ズル利得金額ヨリ其ノ十分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ニ依リ臨時利得稅ヲ賦課ス

前項ノ場合ニ於テ不動産又ハ不動産上ノ權利ノ讓渡ガ防空法第五條ノ十ノ規定ニ基ク命令ニ依ルモノナルトキハ當該讓渡ニ因リ生ズル利得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ免除ス

第一條ノ二十三 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡

第一條ノ二十三 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡

旋ニ依リ昭和十六年一月一日以後昭和二十年十二月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ營業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタル個人ノ當該營業ノ廢止ニ因リ受クル補償金其ノ他之ニ準ズベキモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ總額ガ三萬圓以下ナルトキハ其ノ十分ノ五、三萬圓ヲ超ユルトキハ其ノ十分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ニ依リ所得稅ヲ賦課ス前項ノ場合ニ於テ補償金其ノ他之ニ準ズベキモノノ總額ガ一萬圓以下ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該所得ニ對スル所得稅ヲ免除ス

第一條ノ二十五 法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ木材又ハ薪炭ノ増産ノ必要上立木ノ伐採又ハ讓渡ヲ爲シタル個人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ山林ノ所得ヨリ當該立木ノ伐採又ハ讓渡ニ因リ生ズル所得ノ十分ノ五ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ニ依リ所得稅ヲ賦課ス

(第二項省略)

第一條ノ二十六 個人ノ其ノ年中ノ營業ノ所得、純益又ハ利益金額ガ其ノ年分ノ營業ノ所得ノ決定金額若ハ純益ノ決定金額又ハ利得ノ決定金額計算ノ基礎タル利益金額ニ對シ五割以上減少シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年分ノ當該營業所得ニ對スル所得

旋ニ依リ昭和十六年一月一日以後昭和十九年十二月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ營業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタル個人ノ當該營業ノ廢止ニ因リ受クル補償金其ノ他之ニ準ズベキモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ總額ガ三萬圓以下ナルトキハ其ノ十分ノ五、三萬圓ヲ超ユルトキハ其ノ十分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ニ依リ所得稅ヲ賦課ス前項ノ場合ニ於テ補償金其ノ他之ニ準ズベキモノノ總額ガ一萬圓以下ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該所得ニ對スル所得稅ヲ免除ス

第一條ノ二十五 法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ木材又ハ薪炭ノ増産ノ必要上立木ノ伐採又ハ讓渡ヲ爲シタル個人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ山林ノ所得ヨリ當該立木ノ伐採又ハ讓渡ニ因リ生ズル所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ニ依リ所得稅ヲ賦課ス

(第二項省略)

第一條ノ二十六 個人ノ其ノ年中ノ營業ノ所得、純益又ハ利益金額ガ其ノ年分及前二年分ノ營業ノ所得ノ決定金額若ハ純益ノ決定金額又ハ利得ノ決定金額計算ノ基礎タル利益金額ノ平均額ニ對シ五割以上減少シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年分ノ當該營

業所得ニ對スル所得稅、營業稅及營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ左ノ區分ニ依リ輕減ス

減少割合ガ七割以下ナルトキ	稅額ノ十分ノ三
同七割ヲ超ユルトキ	稅額ノ十分ノ六

前項ノ規定ハ個人ノ其ノ年中ノ營業ノ所得金額ガ五萬圓以上ノ者ニ付テハ之ヲ適用セズ

前二項ノ營業ノ所得ノ決定金額又ハ純益ノ決定金額ハ所得稅法第十二條第三項及第三十條第三項又ハ營業稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ臨時利得稅額ノ控除前ノ金額ニ依ル

第一項及第二項ノ規定ハ個人ノ其ノ年中ノ乙種ノ事業所得ニ該當スル所得ノ金額ガ其ノ年分ノ乙種ノ事業所得ノ決定金額ニ對シ五割以上減少シタル場合ニ付テハ之ヲ準用ス

第一條ノ二十九 企業整備資金措置法又ハ臨時資金調整法ノ規定ニ依リテ爲ス政府特殊借入金ノ利子ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得稅ヲ輕減シ又ハ所得稅法ニ依ル所得若ハ法人稅法ニ依ル所得ノ計算ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第一條ノ三十二 法人ノ納付シタル罰金又ハ科料(通告處分ニ依リ納付シタル罰金又ハ科料ニ相當スル金額ヲ含ム)ハ法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上

業所得ニ對スル所得稅、營業稅及營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ左ノ區分ニ依リ輕減ス

減少割合ガ七割以下ナルトキ	稅額ノ十分ノ二
同七割ヲ超ユルトキ	稅額ノ十分ノ四

前項ノ規定ハ個人ノ其ノ年中ノ營業ノ所得金額ガ三萬圓以上ノ者又ハ其ノ年中ノ營業ノ所得金額ガ其ノ年分ノ營業ノ所得ノ決定金額以上ノ者ニ付テハ之ヲ適用セズ

前二項ノ營業ノ所得ノ決定金額又ハ純益ノ決定金額ハ所得稅法第十二條第三項及第三十條第三項又ハ營業稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ臨時利得稅額ノ控除前ノ金額ニ依ル

第一條ノ二十九 企業整備資金措置法ニ規定スル政府特殊借入金ノ利子ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得稅ヲ輕減シ又ハ所得稅法ニ依ル所得若ハ法人稅法ニ依ル所得ノ計算ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第一條ノ三十二 特別ノ法人ガ法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十九年四月一日以後昭和二十年三月三十一日迄ニ合併又ハ解散シタル場合ニ於テ其ノ出資者ノ受クル所

第一條ノ三十三 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株式(出資金額ヲ含ム)以下本條ニ於テ同ジ)ヲ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ消滅シタル他ノ法人ガ合併前ニ於テ取得シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該株式ノ取得ニ要シタル金銭ヲ以テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主(社員ヲ含ム)ガ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル金銭ト看做シ法人税法及營業税法ノ規定ヲ適用ス

第一條ノ三十五 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹旋ニ依リ昭和十九年四月一日以後昭和二十一年三月三十一日迄ニ合併又ハ解散シタル特別ノ法人ノ清算剩餘金ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ特別法人税法第九條第一項ニ規定スル税率百分ノ二十六ヲ百分ノ十三、百分ノ四十二ヲ百分ノ二十二、同條第二項ニ規定スル税率百分ノ二十二ヲ百分ノ十二・五トシタル場合ノ差減額ニ

得税法第八條ニ規定スル剩餘金ノ分配ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同法第二十一條ニ規定スル税率百分ノ十九ヲ百分ノ十四、同法第二十二條ニ規定スル税率百分ノ三十六ヲ百分ノ三十一トシタル場合ノ差減額ニ相當スル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ三十三 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株式(出資金額ヲ含ム)以下本條ニ於テ同ジ)ヲ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ消滅シタル他ノ法人ガ合併前ニ於テ取得シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該株式ノ取得ニ要シタル金銭ヲ以テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主(社員ヲ含ム)ガ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル金銭ト看做シ所得税法、法人税法及營業税法ノ規定ヲ適用ス

第一條ノ三十五 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹旋ニ依リ昭和十九年四月一日以後昭和二十年三月三十一日迄ニ合併又ハ解散シタル特別ノ法人ノ清算剩餘金ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ特別法人税法第九條ノ規定ニ拘ラズ百分ノ十二・五ノ税率ニ依リ特別法人稅ヲ賦課ス

相當スル特別法人稅ヲ輕減ス

第二條 命令ヲ以テ定ムル法人ガ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人稅、各事業年度ノ純益ニ對スル營業稅又ハ臨時利得稅ニ付爲スベキ法人税法第十八條、營業税法第十五條又ハ臨時利得稅法第十五條ノ申告ノ期限ハ之ヲ各事業年度決算確定後六十日以内トス

第三條 前條ニ規定スル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人稅、各事業年度ノ純益ニ對スル營業稅並ニ臨時利得稅ヲ前條ノ申告ト同時ニ政府ニ納付スベシ

第二條 個人ノ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ二割五分以上減シタルトキハ其ノ納付スル田畑地租ヲ輕減ス

第三條 田畑地租ノ輕減額ハ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ二割五分以上三割五分未満ナルトキ

- 田畑地租額ノ二割
- 同三割五分以上五割未満ナルトキ
- 田畑地租額ノ三割
- 同五割以上七割未満ナルトキ
- 田畑地租額ノ四割
- 同七割以上ナルトキ
- 田畑地租額ノ五割

前項ノ輕減額ハ自作ノ田畑ニ對スル其ノ年分ノ地租額ニ付テ之ヲ計算ス

第四條 平常所得ハ昭和十一年以前三年ノ田畑自作ノ平均所得ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ田畑自作ヲ開始シタル者ニ付テハ昭和十二年ノ所得ニ依ル

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外平常所得ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 第二條ニ規定スル法人前條ノ規定ニ依リ法人稅、營業稅若

ハ臨時利得稅ヲ納付セザル場合又ハ其ノ納付シタル稅額ガ納付スベキ稅額ニ對シ不足スル場合ニ於テハ納付スベキ稅額又ハ不足スル稅額ニ命令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ加算シテ之ヲ徵收ス



第五條 法人税法第十四條及營業税法第九條ノ規定ハ前條ノ規定ニ

依リ臨時利得税ノ額ニ加算シタル金額ニ付テハ之ヲ適用セズ

第六條 納税施設法第七條乃至第九條ノ規定ハ第二條ニ規定スル法人ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條乃至第十二條 削除

第五條 田畑地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第六條 田畑地租ノ輕減ヲ申請シタル者ノ田畑自作ノ所得ハ政府ノ調査ニ依リ其ノ年乙種ノ事業所得ノ金額ヲ決定スル時期ニ於テ政府之ヲ確定ス

第七條 所得税法第十二條第一項第四號ノ規定及同條第五項中相續シタル資産ノ所得計算ニ關スル規定ハ本法ニ依ル田畑自作ノ所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第八條 法人又ハ個人ノ營業(個人ニ付テハ營業税法第二條ニ掲グル營業ヲ謂フ以下同ジ)ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル營業税ヲ輕減ス

第九條 營業税ノ輕減額ハ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ二割五分以上三割五分未満ナルトキ

營業税額ノ二割

同三割五分以上五割未満ナルトキ

營業税額ノ三割

同五割以上七割未満ナルトキ

營業税額ノ四割

同七割以上ナルトキ

營業税額ノ五割

第十條 法人ノ平常純益ハ昭和十二年以前三年内ニ終了シタル各事

業年度ノ平均純益ニ依ル但シ第一次ノ事業年度ガ昭和十二年中ニ終了シタル法人ニ付テハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ平均純益ニ依ル

個人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年ノ平均純益ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ營業ヲ開始シタル個人ニ付テハ昭和十二年ノ純益ニ依ル

前二項ニ規定スルモノヲ除クノ外法人又ハ個人ノ平常純益ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 營業税ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ營業税ヲ輕減セズ  
一 法人ノ營業ノ純益ガ年六千圓以上ナルトキ又ハ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキ

二 個人ノ營業ノ純益ガ六千圓以上ナルトキ

三 法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

第十三條 營業税法第四條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付、同法第十條ノ規定ハ本法ニ依ル個人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付之ヲ準用ス

臨時利得税法第六條及第七條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ資本金額

第十三條 同一人ニ付第一條ノ二十及第一條ノ二十六ノ規定ニ該當スル事由アルトキハ輕減又ハ免除額ノ多額ト爲ルベキ一ノ規定ヲ適用ス

第二十二條ノ三 左ニ掲グル事項ガ法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十七年四月一日以後昭和二十一年三月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ爲サルル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ登記ノ登録税ノ額ハ他ノ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外登録税法ニ拘ラズ左ノ額ニ依ル但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ノ額ガ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 會社ノ設立

金錢出資ニ依ル拂込株金額及金錢ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込株金額及金錢以外ノ財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ一トノ合計額

二 會社資本ノ増加

金錢出資ニ依ル増資拂込株金額及金錢ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル増資拂込

ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十三條ノ二 同一人ニ付第一條ノ二十、第二條ノ二十六及第八條ノ規定中二以上ノ規定ニ該當スル事由アルトキハ當該各規定中輕減又ハ免除額ノ最モ多額ト爲ルベキ一ノ規定ヲ適用ス

第二十二條ノ三 左ニ掲グル事項ガ法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十七年四月一日以後昭和二十年三月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ爲サルル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ登記ノ登録税ノ額ハ他ノ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外登録税法ニ拘ラズ左ノ額ニ依ル但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ノ額ガ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 會社ノ設立

金錢出資ニ依ル拂込株金額及金錢ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込株金額及金錢以外ノ財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ一トノ合計額

二 會社資本ノ増加

金錢出資ニ依ル増資拂込株金額及金錢ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル増資拂込

株金額及金錢以外ノ財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ一トノ合計額

三 第二回以後ノ株金拂込

毎回ノ金錢ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ一トノ合計額

四 會社ノ設立、資本増加若ハ第二回以後ノ株金拂込又ハ事業ノ設備若ハ事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得

不動産又ハ船舶ノ價格ノ千分ノ三

株金額及金錢以外ノ財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ一トノ合計額

三 第二回以後ノ株金拂込

毎回ノ金錢ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ一トノ合計額

四 會社ノ設立、資本増加若ハ第二回以後ノ株金拂込又ハ事業ノ設備若ハ事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得

不動産又ハ船舶ノ價格ノ千分ノ三

## 所得稅法人稅內地關涉法

### 改正法

第一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得並ニ乙種ノ退職所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

第四條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ同法第十條ニ規定スル甲種若ハ乙種ノ事業所得又ハ同法第二十八條ニ規定スル所得中ニ朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スル報酬若ハ料金又ハ株式ノ清算取引ニ因ル所得アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅額ヨリ當該第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ヲ控除ス

第二十二條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金、銀行貯蓄預金、市町村農業會貯金、產業組合貯金、市街地信用組合貯金其ノ他命令ヲ以テ定ムル預金ノ利子及

### 現行法

第一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得、乙種ノ退職所得並ニ清算取引所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

第四條 削除

第二十二條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金及所得稅法第二十一條第三項ニ規定スル預金ノ利子並ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ第六條ノ規

命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ第六條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内利子又ハ利益ノ支拂ヲ受クル者ノ申請ニ依リ利子又ハ利益支拂ノ際其ノ利子金額又ハ利益金額ヲ課税標準トシ百分ノ三十ノ税率ニ依リ綜合所得税ヲ賦課スルコトヲ得

(第二項省略)

定ニ拘ラズ當分ノ内利子又ハ利益ノ支拂ヲ受クル者ノ申請ニ依リ利子又ハ利益支拂ノ際其ノ利子金額又ハ利益金額ヲ課税標準トシ百分ノ三十ノ税率ニ依リ綜合所得税ヲ賦課スルコトヲ得

(第二項省略)

### 戰時災害國稅減免法

#### 改正法

第二條 政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於テ納付スベキ國稅及戰時災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ課税標準ノ計算、調査及決定ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於ケル所得調査委員會ニ關シ勅令ノ定ムル所ニ依リ特例ヲ設クルコトヲ得

第三條 政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於テ納付スベキ國稅並ニ戰時災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅及戰時災害ニ因ル被害物件ニ對シ課セラルベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ課税ニ關スル申告及申請(審査ノ請求及異議ノ申立ヲ含ム)並ニ納期ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於テ爲シ又ハ戰時災害ニ因ル被害者ノ爲スベキ國稅ニ關スル支拂調書、計算書其ノ他命令ヲ以テ定ムル書類ノ提出ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ特例ヲ設クルコトヲ得

#### 現行法

第二條 政府ハ戰時災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ課税標準ノ計算ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

第三條 政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於テ納付スベキ國稅並ニ戰時災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅及戰時災害ニ因ル被害物件ニ對シ課セラルベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ課税ニ關スル申告及申請並ニ納期ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

# 納税施設法

## 改正法

第一章第六條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第六條ノ二 政府ハ納税團體ノ管理スル納税資金又ハ納税團體ニ對シ國税ノ納付ヲ委託シテ交付シタル金錢等ガ亡失シタル爲被害ヲ受ケタル團體員ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ國税ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

團體員前項ノ規定ニ依リ國税ノ輕減又ハ免除ヲ受ケタルトキハ當該團體員ガ前項ノ管理ニ關シ又ハ前項ノ委託ニ基キ有スル權利ハ輕減又ハ免除ヲ受ケタル國税額ノ限度ニ於テ消滅ス

第一項ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セラルル國税ハ法令上ノ納税資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス

第六條ノ三 政府ハ前條第一項ノ規定ニ依リ國税ヲ輕減又ハ免除シタル場合ニ於テ同項ニ規定スル亡失ガ納税團體ノ役員、使用人等ノ故意又ハ過失ニ因ルト認メララルトキハ納税資金亡失責任審査委員會ノ諮問ヲ經テ此等ノ者ニ對シ輕減又ハ免除シタル國税額ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ノ賠償ヲ命ズルコトヲ得

## 現行法

前項ノ賠償金ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第一項ノ規定ニ依リ賠償ヲ命ゼラレタル者其ノ命令又ハ賠償金ノ徵收ニ付不服アルトキハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

納稅資金亡失責任審査委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條ノ四 第六條ノ二並ニ前條第一項及第二項ノ規定ハ都道府縣、市町村其他命令ヲ以テ定ムル公共團體ノ租稅公課ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ政府トアルハ都道府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル公共團體トシ納稅資金亡失責任審査委員會ノ諮問トアルハ都道府縣參事會、市參事會、町村會其ノ他之ニ準ズルモノノ議決トス

前項ニ於テ準用スル前條第一項ノ規定ニ依リ賠償ヲ命ゼラレタル者其ノ處分ニ付不服アルトキハ都道府縣ニ對スル賠償ニ在リテハ主務大臣ニ訴願ヲ爲シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ對スル賠償ニ在リテハ地方長官ニ訴願ヲ爲シ其裁決ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

前項ノ賠償ヲ命ゼラレタル者賠償金ノ徵收ニ付不服アルトキハ都道府縣ニ對スル賠償金ニ在リテハ行政裁判所ニ出訴シ市町村

其ノ他ノ公共團體ニ對スル賠償金ニ在リテハ地方長官ニ訴願ヲ爲シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル地方長官ノ裁決ニ付テハ市町村長其ノ他之ニ準ズル者ヨリモ主務大臣ニ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

## 輕金屬製造事業法

### 改正法

第七條 輕金屬製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後十年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム輕金屬製造事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス  
(第二項以下省略)

### 現行法

第七條 輕金屬製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム輕金屬製造事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス  
(第二項以下省略)

# 國民貯蓄組合法

改正法

現行法

第四條ノ二 市町村農業會其ノ他第二條第四號ノ團體ヘノ貯金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ラザルモノト雖モ前條ノ規定ノ適用ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ルモノト看做ス



附 則

改 正 法

現 行 法

第十八條 本法ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十四條及第十五條ノ規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得、乙種ノ退職所得及個人ノ總所得ニ對スル所得稅竝ニ個人ノ營業稅及臨時利得稅ニ付テハ昭和二十年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

法人ノ各事業年度ノ所得ニ對スル法人稅、各事業年度ノ純益ニ對スル營業稅及臨時利得稅ニ付テハ昭和二十年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ同年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ法人ノ昭和十九年九月二十日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ第四項ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

臨時租稅措置法第二條乃至第六條ノ改正規定ハ法人ノ昭和二十年

四月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人税、營業税及臨時利得税ヨリ之ヲ適用ス

特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ニ對スル特別法人税ニ付テハ昭和二十年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算剩餘金ニ對スル特別法人税ニ付テハ同年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十條 本法施行前ニ於ケル株式ノ消却、退社、脱退、出資ノ減少、解散又ハ合併ニ因ル從前ノ所得税法第八條ニ規定スル利益ノ配當及剩餘金ノ分配竝ニ本法施行前ニ於ケル株式ノ清算取引ニ因ル所得ニ對スル所得税ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ當該利益ノ配當及剩餘金ノ分配ニ對スル綜合所得税竝ニ當該清算取引所得ニ對スル分類所得税ノ徵收ニ付テハ改正後ノ所得税法第七十三條ニ規定スル納期ニ依ル

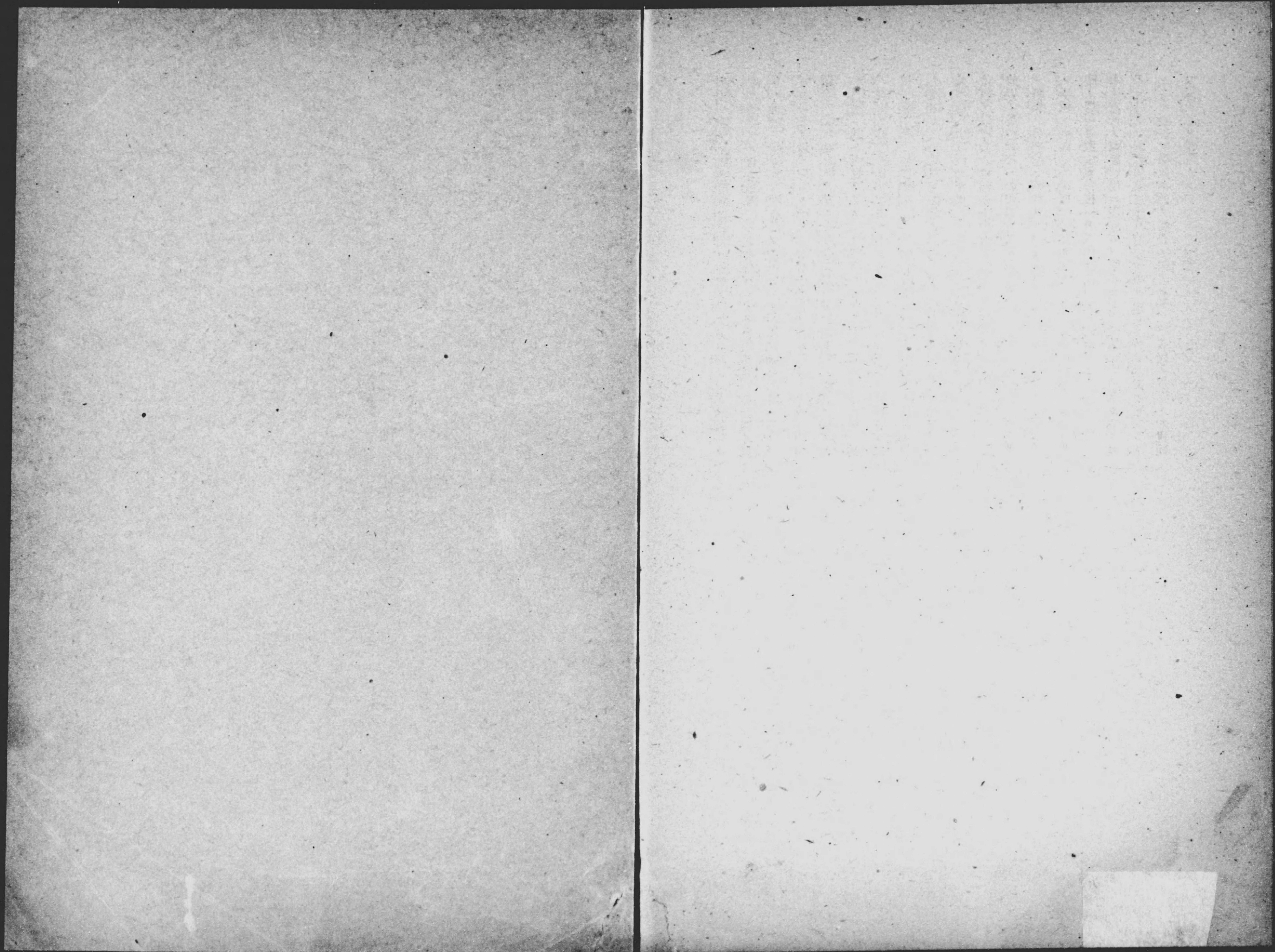
本法施行前ニ於ケル合併又ハ解散ニ因ル法人ノ清算所得ニ對スル法人税又ハ特別ノ法人ノ清算剩餘金ニ對スル特別法人税ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十一條 本法施行前ニ於テ從前ノ規定ニ依リ酒税ノ輕減又ハ交付金ノ交付ヲ受ケ又ハ受クベカリシ酒税ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行後其ノ用途ヲ變更スル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

酒類ノ製造者若ハ販賣業者又ハ命令ヲ以テ定ムル者ガ本法施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ各種類ヲ通ジ合計四斗以上ノ酒類ヲ所持スル場合及其ノ所持スル酒類ガ合計四斗ニ滿タザルモ命令ヲ以テ定ムル酒類ガ合計ニ斗以上ナル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ其ノ所持スル酒類ニ對シ酒税ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ酒類ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ改正後ノ酒税法第二十七條、第二十七條ノ二、第八十三條又ハ第八十四條ノ規定ニ依リ算出シタル税額ト從前ノ酒税法第二十七條乃至第二十七條ノ三又ハ第八十三條乃至第八十四條ノ規定ニ依リ算出シタル税額トノ差額ヲ以テ其ノ税額トシ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ製造者若ハ販賣業者又ハ命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ所持スル酒類ニ付從前ノ酒税法第二十七條ノ三ニ規定スル酒類ト其ノ他ノ酒類トニ區分シ種類、級別及アルコール分毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

本法施行ノ際製造場ニ現存スル酒類ニシテ戻入又ハ移入シタルモノニ付テハ酒税法第三十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ移出シタルトキ酒税ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ第二項後段ニ規定スル税額ヲ以テ其ノ税額トス



12F9

